

ある町まちの人々ひとびは、みんな眠ねむ
そうにしていました。朝あさにな
っても、昼ひるになっても、まだ
目めをこすっています。町まちの家いえ
も、道みちも、まるで夢ゆめの中なかにい
るようでした。それでも、
人々ひとびは幸しあわせそうに暮くらしてい
ました。

小川未明おがわ みめい

「眠ねむい町まち」より